

出演民俗芸能の紹介

からめ節金山踊り（尾去沢地区） 一市指定無形民俗文化財一

鹿角が発祥の地といわれている「からめ節金山踊り」は、鉱山とともに伝承され、尾去沢鉱山に働いた坑夫や手選婦の仕事の中から生まれた作業唄と踊りの芸能である。「金山踊り」は「からめ節」の七七七五調の曲調に合わせて、小道具にザルと槌を使い、鉱石を選鉱する所作を振付した踊りである。戦中戦後や鉱山閉山など伝承が途絶えそうになった時期もあるが、現在は「尾去沢からめ節保存会」として、5月14日・15日の2日間、尾去沢山神社祭典での奉納や地区小学校等での指導など保存・伝承活動に力を入れている。

花輪祭の屋台行事（花輪地区） 一国重要無形民俗文化財一

花輪地区にある幸稲荷神社と花輪神明社の合同の祭礼において奉納される祭礼囃子で、8月19日・20日の2日間、10町内から出される屋台が巡行し囃子を奉納する。伝承されている曲は13曲あり、屋台が巡行する際には「本囃子」を演奏し、稲村橋などでは得意の囃子を演奏する。屋台は「腰抜け屋台」と呼ばれる底板のない屋台で演奏しながら動けるように足回りは簡素造りになっている。囃子は笛・太鼓・三味線・鉦により演奏する。

平成28年に「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録される。

毛馬内の盆踊（十和田地区） 一国重要無形民俗文化財一

毛馬内地区の本町通りで8月21日から23日の3日間、篝火をたき、その周りを細長い輪となり情緒豊かで優雅に踊る。踊り手の衣装は、着物の裾をはしより、女性は鴉色、男性は水色の蹴出しをつけ、男女とも豆絞りの手拭で口元を隠し、あごの下で結ぶ独特の頬被りをする。紋付か留袖の正装のため「箆笥の底」を着て踊るものといわれる。太鼓と笛の囃子にあわせて踊る「大の坂踊り」と歌にあわせて踊る「甚句踊り」が伝承されている。

令和4年に「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録される。

特別出演

兄川先祓い（岩手県八幡平市） 一市指定無形民俗文化財一

先祓いは、神輿の先導に立ち清め祓いながら進むことに由来しており、言い伝えによると兄川集落の祖が兄川に宿場ができたことを記念して、兄川稲荷神社の祭典のときに先祓いと杵取り舞を踊ったのが始まりとされている。兄川先祓いは8演目10種類の舞があり、刀を持って踊る勇壮なもので、踊りに関する素朴な風習が残っているのが特徴である。鹿角市の八幡平地区の先祓舞はこの兄川先祓いを手本としている。現在は7月の第3日曜日に兄川稲荷神社祭典で奉納されている。

永井の大念仏剣舞（岩手県盛岡市） 一国重要無形民俗文化財一

盛岡市永井地区に伝わる永井の大念仏剣舞は、先祖を供養する供養念仏の一種で、約220年前の寛政年間の頃に現在の紫波町日詰から剣舞の巻物がもたらされたことが始まりとされている。円形の大きな台の中央に仏塔を乗せた「大笠」を頭にかぶり、大きく振って踊る「笠振」が特徴であり、また、「入羽」と「中羽」の頭には必ず「南無阿弥陀仏」の名号を歌にして唱える。

令和4年に「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録される。